

Members to JCI JAPAN

出向者紹介

JCI JAPAN ー公益社団法人日本青年会議所ー

山本正博	グローバルリーダー育成委員会	副委員長
白濱史教	グローバルリーダー育成委員会	小幹事
大瀧敬久	グローバルリーダー育成委員会	委員
尾関利文	グローバルリーダー育成委員会	委員
片平瞬太	グローバルリーダー育成委員会	委員
塩川丈二	グローバルリーダー育成委員会	委員
野崎弘樹	グローバルリーダー育成委員会	委員
益木宏康	グローバルリーダー育成委員会	委員
森博文	グローバルリーダー育成委員会	委員
安藤悟	グローバルリーダー育成委員会	委員
後藤岳彦	TOYP委員会	会計幹事
赤石恒一	TOYP委員会	委員
大畑基	TOYP委員会	委員
天方裕太郎	TOYP委員会	委員
高山和也	TOYP委員会	委員

Tokai District Council ー東海地区協議会ー

高柳敦輝	JCI日本連携委員会	委員
内藤慶一	JCI日本連携委員会	委員

Shizuoka Bloc Council ー静岡ブロック協議会ー

栗田泰吉	役員	副会長
古本健二	共感ネットワーク構築委員会	副委員長
中山涉	共感ネットワーク構築委員会	委員
佐藤祐希	共感ネットワーク構築委員会	委員
須山裕平	共感ネットワーク構築委員会	委員
原健司	価値デザイン確立委員会	副委員長
山本純	価値デザイン確立委員会	委員
松永孝道	アカデミー委員会	委員
大島純	アカデミー委員会	委員
平井綾	アカデミー委員会	委員
木村知明	アカデミー委員会	委員

History

沿革

- 1951年 各地青年会議所の総合調整機関である日本青年会議所の設立。
- 1953年 旧清水市を活動の中心とする清水JCの設立。
- 1954年 旧静岡市を活動の中心とする旧静岡JCの設立。
- 1975年 旧蒲原町、旧由比町を活動の中心とする駿河JCの設立。
- 2005年 清水、旧静岡、駿河の3つのJCが解散。
- 2006年 社団法人静岡青年会議所の設立。
- 2007年 第34回JC青年の船「とうかい号」事務局主管
市民討議会「voice of しずおか」の開催。
- 2008年 しずおか未来学園 社会体験夢学校の開催。
- 2009年 静岡市内の中学校などでJCT（職業講話）開始。
- 2010年 静岡青年会議所5周年記念式典開催 中国で「静岡一、受けたい授業」開催。
職業体験事業（しずおか未来学園）が、
文部科学大臣からキャリア教育優良団体として表彰される。
- 2011年 東日本大震災における義捐金寄付
第38回JC青年の船「とうかい号」事務局主管。
- 2012年 東日本大震災における被災地活動。
社団法人新潟青年会議所（現：一般社団法人新潟青年会議所）と
「災害時相互支援協定」を締結。
- 2013年 一般社団法人静岡青年会議所へ法人格を移行
韓国・仁川青年会議所との姉妹JC締結。
- 2014年 First Vision（2024年までの運動指針）を策定。
- 2015年 静岡青年会議所10周年記念式典・記念事業の開催。
第31回全国JCサッカー選手権大会・静岡大会開催。
- 2016年 Road to Million（First Vision達成のためのアクションプラン）策定。
- 2017年 女性が活躍できるまち静岡への取り組み。
- 2018年 国道1号線バイパス蒲原興津間代替道路早期実現に向けて。
12,032筆の署名を国土交通省へ提出する。
- 2019年 愛郷心創造事業・静岡市初・市民映画「Bond」製作・プロデュース。
わんぱく相撲・静岡県大会主管。
- 2020年 新型コロナウイルス感染予防啓発、マスク普及への取り組み。
First Vision、Road to Million改定



Dare to Dream
2021年1月号

発行所：一般社団法人静岡青年会議所 〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町20-8 静岡商工会議所 304号 電話：054-255-5593

夢に向かうためには最初の一步を
踏み出さなければならない
進め、前へ、前へ

16th
ANNIVERSARY
13.JAN.2020

Dare to Dream

We support your dreams.
Good luck to everybody.



Greetings

ご挨拶

明けましておめでとうございます。

本年度は新型コロナウイルスの感染防止の観点から、ご来場されます皆様方の健康と安全を第一に考慮し、大変残念なことでありますが、賀詞交歓会の開催の中止を決定いたしました。何卒ご理解の程、お願い申し上げます。

しかしながら、静岡青年会議所の2021年度の方針の発信と、関係諸団体の皆様方との連携強化という、賀詞交歓会に込めたかった私の想いを、別の方法で皆様方へ届けられないかと考え、本誌の製作に至りました。

静岡青年会議所は、2005年、魅力溢れるまちの輝かしい未来を見据え、静岡・清水・駿河の3つの青年会議所がひとつとなり、新たな歴史をスタートさせました。以来、脈々と引き継がれてきた誇り高き魂を継承し、政令指定都市・静岡市とともに歩み、昨年15周年を迎えることができました。

16年目となる本年度は、どんな状況であっても一人ひとりが夢を描き挑戦し、その挑戦を応援できるようなまちを目指してまいります。そんなまちでは、夢に向かって行動しようとする人を温かく受け入れる和が生まれ、「夢が叶えられるまち、静岡」が創造されます。

これまで皆様方より静岡青年会議所に賜りましたご厚情ご助力に改めまして深く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



一般社団法人 静岡青年会議所

第16代理事長 鍋田昌吾

Fundamental plans

基本計画

基本理念

まちと共に挑み、まちと共に歩む
夢が叶えられる静岡の実現へ
進め、前へ、前へ

基本方針

1. 夢に向かって一步を踏み出す、個の国際化の推進
2. 夢を描こう、このまちの未来で活躍する青少年育成
3. 高め合い支え合う、熱意と活力ある会員の育成
4. 魅力が「伝わる」、共感が広がる、静岡青年会議所のブランディング
5. 変わることはない本質と時代に対応した柔軟な組織基盤の確立

スローガン

共に挑戦 いざ進め! 夢が叶えられるまち静岡

My convictions

理事長所信

まちと共に挑み、まちと共に歩む
夢が叶えられる静岡の実現へ
進め、前へ、前へ

はじめに

2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるはずでした。新型コロナウイルスの影響により延期を余儀なくされ、夢に向かって努力を重ねてきた多くの方が、志半ばでその挑戦を諦めることを強いられました。このウイルスの特長なことは、人が行動することに対して大きな制限をかけてしまうことです。人と人が会うこと、会話すること、移動すること。これまで当たり前であった日常は、大きく変化をしまい、積極的に行動を起こすことに抵抗感を感じてしまうような時代を私たちは生きています。この変化に対応せず、立ち止まってしまっているよりは良い未来を目指すことはできません。目まぐるしい社会の変化の中で前を向いて行動するためには、目的地をしっかりと見据えることが重要です。その目的地は十人十色で、確固たる信念で描くものもあれば、まだまだ未熟なものもあります。大切なことは、その目的地に向かって歩を進めるということです。まずは行動し人生を前に進めていかなければなりません。この目的地こそ夢であり、夢こそ人が挑戦する原動力なのです。



夢に向かうためには最初の一步を踏み出さなければなりません。自分にはできるのか。この道は正しい道なのか。挑戦することには大きな不安が付きまといます。私たち静岡青年会議所には、失敗を恐れない若さと、まちの未来のために挑戦し続けた伝統があります。今このまちに私たちが求められていることは、若さ溢れる行動力で閉塞感を打破する挑戦をすること、そしてそれに呼応するように夢に向けて一步を踏み出そうとする人を

勇気づけ応援することではないでしょうか。夢が描けないと下を向いている人に顔を上げてもらいたい。夢に向かって前向きに行動してもらいたい。行動を起こすのは一人ではありません。共に挑み、共に歩む。これが夢の実現の後押しとなります。私たちの挑戦と応援が、夢を描き行動する人をまち全体で温かく受け止める和を生み出し、そしてその和が誰もが夢を叶えられるまちが実現する力となるのです。

夢に向かって一步を踏み出す、個の国際化の推進

昨年度から続く、コロナショックとも呼べる大きな社会変動により、まちの活気は失われ、これまで静岡青年会議所はまちに笑顔を取り戻すための活動を続けてまいりました。本年度はさらに、夢が叶えられるまちの実現のために、まず私たち自身が挑戦することの大切さをまちに伝え、夢に向かって挑戦する人を勇気づけてまいります。そして挑戦する勇気をもった人が一步を踏み出せるように、力強く応援することで地域を牽引してまいります。また自分自身が海外へ行けなくとも、ICTを利用することで、世界をより身近に感じられる時代となりました。コロナショックにより人の心が内向きになってしまっている中でも、国際化の視点をもつことでものごとを多角的に見ることができますし、夢を描く視野をさらに広げることができます。これまで静岡青年会議所が推進してきたまちの国際化を引き続き目指して、会員一同全力で取り組んでまいります。

新型コロナウイルスにより行動は大きく制限され、世間では人と人が今まで通りに交流することが危険であると認識されています。この事実の本当に危険なことは、人がこの事実を乗り越えるべき困難として扱わないこと、立ち向かっていかないことです。人と人の熱量を通わず交流は、夢を語り、夢に向かう行動力を生み、それがまちの発展の源へとつながっていきます。そしてその交流の場で、夢に向かって挑戦していく人を応援することでその人が輝く舞台が創られます。この人

と人の交流が、この状況の中でも継続していけるように最大限の行動を率先して起こしてまいります。



夢を描こう、このまちの未来で活躍する青少年育成

子どもたちを取り巻く現代社会では、情報も知識もインターネットを通じて簡単に手に入れることができます。それらは、子どもたちが夢を描くためには必要なものの一つですが、夢に向かって挑戦していくためには、子どもたちが見て触れて感じることができる原体験が必要ではないでしょうか。子どもたちが夢を描け、叶えられるまちを創るのは私たち大人の責務です。子どもたちが夢に向かってしっかりと取り組める環境を創り出すことで、子どもたちの未来への歩みの支えとなり、生きていく力は伸びていきます。このまちには魅力的な産業とそれを支える多くの企業があります。この企業の一つ一つが必ず子どもたちが夢を描けるような魅力をもっていて、自社の魅力を誇りに想い地域へしっかりと伝えることが子どもたちの夢の選択肢を増やすことにつながります。私たちの青少年育成事業であるしずおか未来学園は長年に渡り地域の子どもの健全な発展に貢献してまいりました。本年度はそれを子どもたちの将来の夢と関わらせるかたちで展開してまいります。

子どもたちが夢を描け、それに向かって進んでいくことで、子どもたちは逞しく成長することができます。そんな未来を担う子どもたちのために、私たちはいったい何ができるのでしょうか。静岡青年会議所には多種多様な業種の会員が在籍し、それぞれの会員が人脈を有しているという特色があります。私たちであれば、この多様性とネットワークを活用し、子どもたちが学校ではつながらぬ機会の少ない、地域の企業との懸け橋となることのできるのです。子どもたちが地域の企業の魅力をよく知り、このまちで活躍する未来の自分自身を想像することで、子どもたちの夢は大き

く拡がり、このまちであれば自分の夢に向かって挑戦することができると強く感じていただけます。

高め合い支え合う、熱意と活力ある会員の育成

静岡青年会議所の原動力は潤沢な資産でもなければ、最先端の技術でもありません。私たちの運動の源泉は会員一人ひとりの想いと行動力です。人々の夢が叶えられるまちの実現のためには、会員一人ひとりの前向きな運動への参加が不可欠であり、会員が成長を実感できる時間を創り上げていくことが、まちづくりの大きな潮流を生み出すことにつながります。これまで経験したことのない学びを通じて、会員一人ひとりが挑戦する勇気を心に刻みます。会員同士が協力し合い、互いに高め合うことで、会員同士の新しい交流が生まれ、これまでに知らなかった一面との出会いとなり、仲間との信頼関係が作られていきます。研修と交流の両輪をもって、自分自身と仲間をエールを送り、会員が成長を遂げることで、より逞しい青年会議所の運動につながっていきます。



魅力が「伝わる」、共感が広がる、静岡青年会議所のブランディング

私たちの運動は、一年ごとに役職が変わることで、外部の方からすれば一過性のようなものに映ることもあるかもしれませんが。しかしその本質は、一つひとつの事業がまちの人のまちづくりへの想いを高め、その想いが波紋のようにまちに広がっていく、連続的な運動を目指しています。その中で私たちが今行っていることを、しっかりと外部へ伝達し、その想いに共感した仲間が運動に加わる。新しい仲間の想いがまた外へ伝わり、運動が連鎖する。このような好循環を生み出すことも私たちのまちづくり運動の使命であります。この流れの源流となる静岡青年会議所の魅力が「伝える」のではなく「伝わる」こと、そして想いの共感を増やしていくことに着目し、静岡青年会議所

のブランディング活動を進めてまいります。

「伝える」と「伝わる」という言葉の違いには大きな影響力の差があります。情報を伝えることが、インターネットを通じて容易になったこの時代では、私たちの運動を伝えていく手段は増えてきましたが、その分一つ一つの情報が埋没しやすくなっているのではないのでしょうか。このような時代の中では、広報もただ闇雲に情報を発信するだけではなく、発信する対象者をしっかりと明確にしていかなければ、私たちの運動が「伝わる」ようにはなりません。「伝わる」広報を用いて会員やまちの人を応援することを意識し、特に入会候補者にしっかりと静岡青年会議所の魅力を発信できる広報活動を行ってまいります。また出向者の活躍を含めた、内部広報活動も行い会員の成長を後押ししてまいります。新型コロナウイルスの影響下であっても、この目的を必ず達成いたします。



変わることのない本質と時代に対応した柔軟な組織基盤の確立

ICTが発展したこの時代では、青年会議所の事業や会議でさえも、やろうと思えば集まらずにパソコンを通じて行えるような環境が整っています。これは画期的なことで、より青年会議所の運動に参加しやすくなる良い機会のようにも見えます。しかし果たしてこれが新しい青年会議所のやり方なのでしょうか。静岡青年会議所がまちづくりに寄与してきた歴史には、会員が強い想いをもって真剣に事業構築をしていくという基礎がありました。それがオンラインというかたちですべて片付くことはなく、人と人が直接会うことで生まれる意義が必ずあります。会員が事業を構築していく過程で、挑戦していく機会や、仲間を支える精神を学び、成長していくことが青年会議所の魅力であり、私たちの運動が人の心を動かしていきます。

むすびに

私自身も夢に挑戦し続け、失敗し続けた経験があります。何度も悔し涙を流し、劣等感に苛まれた苦しい時期を過ごしてきました。しかし今となってはその費やした時間がとても貴重なものであったと実感しています。重ねた失敗を経験につなげ、厳しい環境でも自分を奮い立たせて乗り越えようとする力強い信念となりました。そして私が夢に向かって辿った道を振り返ってみると、一人でその道を歩んできたわけではないことに気づかされました。共に同じ道を歩み鼓舞し合った仲間、支え続けてくれた家族、周りの人からの応援が夢の実現のための力となり、大切な人ととの絆になりました。夢を叶えるために一生懸命に行動することで己が磨かれ成長をし、周りの人に感謝の気持ちをもって接することができるのです。

困難に挫けて、夢を諦めてないでしょうか。挑戦することに怯えてないでしょうか。叶わない夢はありません。それは夢が叶わないのではなく、どうせできない、やっても無駄だと心の中で決めつけていて、何一つ行動に起こせていないだけなのです。このまちの市民全員が、夢を描き、夢に向かって行動できるとしたらまちはどうなるのでしょうか。大きな困難が目の前にあったとしても、それを共に乗り越えていけるはずですよ。まちはそんな人たちで溢れ、賑わいが生まれ、活気が生まれます。活気の中から、新しいアイデアが生まれ続けます。これがまちにイノベーションをもたらし、次代につながるまちとなるはずですよ。これはすなわち、未来のまちを創り上げていく運動に他ならず、持続可能な社会へ発展していくことですよ。だからこそ、私たち静岡青年会議所はまちと共に挑み、まちと共に歩んでまいります。私たちが希望の光となり、夢が叶えられる静岡が実現します。だから進め、前へ、前へ。





Progress and encourage with each other.
It's the City your dreams come true.

まちと共に挑み まちと共に歩む
CHALLENGE × CHEER

人は夢があるからこそ、前を向いて生きていける。
挑戦、そして、応援、2つのキーワードをもとに
2021年の静岡青年会議所は歩みを進める

コロナ渦の今だからこそ、私たち青年の力がこの静岡のまちには絶対必要です

2020年は新型コロナウイルスの影響で、人々の行動が大きく制限される世の中になってしまいました。「ポストコロナ」あるいは「ウィズコロナ」に向けて経済社会活動を段階的に正常化させている最中ではありますが、これまでの生活から大きな変更を余儀なくされてしまった方も多く、先行きの見えない不安や閉塞感はいまだ社会全体を覆っている状況といえます。そのような状況の中で、私は、責任世代と呼ばれるわたしたちが率先して挑戦することで、この閉塞感を打破していきたいと思っています。ただし、独りよがりな挑戦ではまち全体を変えていくことは出来ません。まちの人々の共感を得ながら、一緒になって挑戦していくことが大切です。まちと共に挑

戦し、挑戦していく人の背中を押してあげることができる。静岡青年会議所は、共に挑み、共に歩むことができる、そんなまちづくり団体でありたいと思っています。

夢が描けないと下を向いている人には顔を上げてもらいたい。夢に向かって前向きに行動してもらいたい。私の大好きなこの静岡のまちを、誰もが夢を描いて行動できるようなまちにしていきたい。

人が行動していく原理を考えた時に、「夢」というものを正面からしっかりと掲げることが大切だと思っています。「夢」にはそれほど大きく、人々を突き動かす力があると思っています。それには様々なものがあります。大きいもの、小さいもの、少し先の未来の夢かもしれない。大切なことは、少しずつでも、その歩みを進めることです。すると

それは、熱をおび、より強固なものへ、より具体的なものへと進化していくのです。その「夢」こそが、人々の目を輝かせ、人々の心に活力を与え、人々の足取りを前に進めるのです。



If you can, I can do.

一般社団法人静岡青年会議所 第16代理事長 鍋田昌吾

青年会議所は、夢を叶えるための一助であるべきだし、そうなる可能性を十分に持っている団体です。一人で踏み出す勇気が持てなければ、多くの人の助けを借りてほしい

夢に向かって一歩踏み出す勇気をもつことは、非常に難しいことで、口で言うほど実行に移すことは簡単ではありません。もしかすると、「どうせ変わらない」「やるだけ無駄」そんな思いが邪魔することもあるかもしれません。しかし、そんな時、考えてほしいことは、人間には、一人ではできないこともみんなで集まって解決する能力が備えられている、ということです。夢も一人で描いて実現のために行動することは大変ですが、周りの応援、共に高め合おうとする存在により支え合いながら実現することができます。私自身も周りの人々との支え合い、切磋琢磨の中

で、これまでの人生、夢に挑戦してこられたと感じています。行動を起こすのは一人ではありません。

If you can, I can do.
私は、大変なとき、めげそうなときに鏡の向こうの自分にこう話しかけます。

自分自身に「お前にできるなら、俺はやる」と話しかけ、自分自身を奮い立たせます。2021年度、世界の様相はまた目まぐるしく変わるかもしれません。しかしどんな時も、自分を信じて、仲間を信じて、前に前に進みたいと思っています。共に挑み、共に歩んで参りましょう。



鍋田昌吾 Shogo Nabeta 公認会計士・税理士
1983年12月1日生まれ・37歳 鍋田会計事務所 所長
2002年 静岡県立静岡高等学校卒業
2006年 中央大学商学部卒業
2010年 公認会計士試験合格
2011年 有限責任あずさ監査法人入所
2016年 鍋田会計事務所を父より事業承継
長く地元で愛され、静岡の企業のために日々研鑽を重ねてきた今の事務所を引き継ぐ際のプレッシャーには、何度も負けそうになったという。経営者との細やかなコミュニケーションから問題点を発掘し、可能な限りのソリューションを提供できる企業の成長の下支えになる価値の提供が、これからの時代の会計事務所には不可欠であると言う。
学生時代には、バックパッカーとして世界50カ国を渡り歩く。2017年に結婚。現在1児の父として仕事に家庭にJCIに奮闘中。

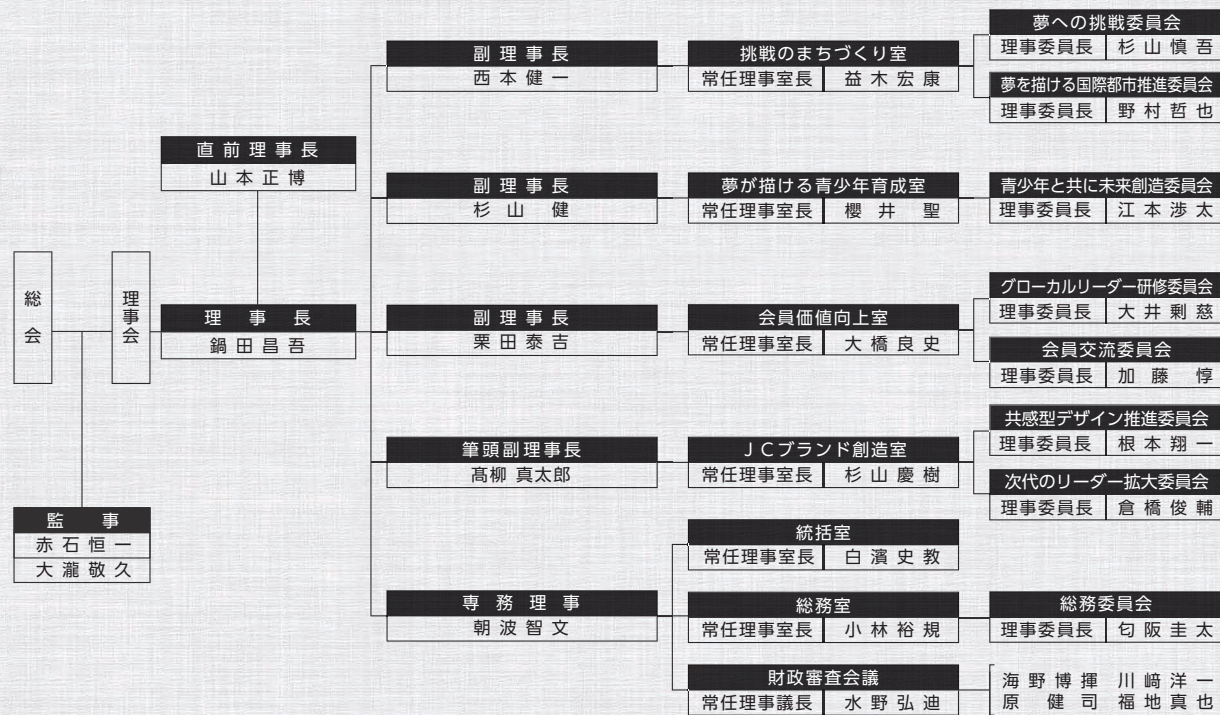
Board members

理事長・直前理事長・副理事長
専務理事・監事・常任理事

 理事長 鍋田昌吾	 直前理事長 山本正博	 筆頭副理事長 高柳真太郎	 副理事長 栗田泰吉	 副理事長 杉山健	 副理事長 西本健一
 専務理事 朝波智文	 監事 赤石恒一	 監事 大瀧敬久	 挑戦のまちづくり室 常任理事室長 益木宏康	 夢が描ける青少年育成室 常任理事室長 櫻井聖	 会員価値向上室 常任理事室長 大橋良史
 JCブランド創造室 常任理事室長 杉山慶樹	 統括室 常任理事室長 白濱史教	 総務室 常任理事室長 小林裕規	 財政審査会議 常任理事議長 水野弘迪		

Organization chart

組織図



Commissions

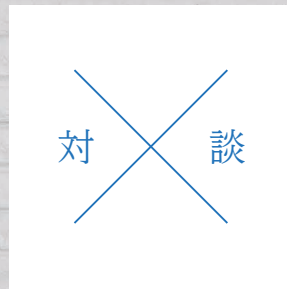
委員会紹介

 夢への挑戦委員会 理事委員長 杉山慎吾 限界に挑戦した事業で、 静岡のまちを元気にします！	 夢を描ける国際都市推進委員会 理事委員長 野村哲也 このまちの個の国際化を推進させ、 2022年度国際アカデミー静岡 開催誘致に向けて挑戦します！
 青少年と共に未来創造委員会 理事委員長 江本渉太 このまちの企業と子ども達との 架け橋となり 明るい未来の創造へ挑戦します！	 グローバルリーダー研修委員会 理事委員長 大井剩慈 グローバル × ローカル 国際的な視点と思考で時代を読み、 自身や地域社会の価値向上に挑戦します！
 会員交流委員会 理事委員長 加藤惇 会員同士のつながりが無数に存在し、 いつまでも交流が続けられる 関係性の架け橋へ挑戦します！	 共感型デザイン推進委員会 理事委員長 根本翔一 「伝わる」情報発信で、 共感の輪のデザインに挑戦します！
 次代のリーダー拡大委員会 理事委員長 倉橋俊輔 静岡青年会議所史上、 最大の拡大人数67名の入会に 挑戦します！	 総務委員会 理事委員長 匂阪圭太 静岡JCを支える、 確実な会議運営に挑戦します！



心を育てる・人生を充実させる
つまりダイバーシティを知り
多様な価値観を知ることが
国際化の一番のメリット

静岡市長
田辺信宏



鍋田昌吾

一般社団法人静岡青年会議所
理事長

個の国際化がキーワード
意識を外に向けることが
夢を広げる機会になる



静岡市の未来と国際化

SDGsを基軸に静岡市の田辺信宏市長と静岡の近未来について対談させていただきました

市政について、又、若き我々へのエールを語られる田辺市長
「夢がかなえられるまち静岡」を目指し熱く語る鍋田理事長
「チーム田辺市長」と「チーム鍋田理事長」、2人のリーダーが語る静岡の未来とは

鍋田：本年、私たち静岡青年会議所は、「共に挑戦 いざ進め！夢が叶えられるまち静岡」をスローガンに16年目の新たな一歩を踏み出します。まちの人々と共に私たち自身も挑戦し、挑戦しようとする皆様に応援する運動を展開していく気持ちを込めています。そして、その先に、「明るい豊かな社会」の実現があると考えています。そこで田辺市長の考える明るい豊かな社会とはどのようなものか、聞かせてください。

田辺市長：まずもって理事長が掲げたスローガンをとても心強く感じました。2021年の静岡青年会議所が、力強く地域社会を引っ張っていく、という気概を受け止めたのでそれにエールを送りたいと思います。明るく豊かな社会との質問については、個人レベルでの考えとまちレベルの考えと、2つあるかと思えます。個人レベルで私が目指す社会は、一人一人が再チャレンジできる社会。長い人生ですので失敗や挫折をすることもあります。しかし、失敗したときに、社会が、行政が、その人をもう一度頑張れと励ますことができることが非常に重要だと思います。勝つことより転んでも起き上がるの方が大切なことだと思っています。だけどなかなか転んだ時に起き上がるというのは難しい。そこを支えてあげることが明るい豊かな社会の条件だと思います。また、まちレベルでは、世界に輝く静岡というものを私は求めています。これは抽象的な言葉なので、平たく言うと世界中から人が集まるまちを作りたい。それが私のビジョンです。

鍋田：ありがとうございます。私たち青年会議所も、国際化事業を進めており、いま田辺市長がおっしゃられた「世界に輝く静岡」というビジョンに共鳴するものです。コロナ禍の今、イ

ンバウンドで多くの人に来てもらうことは難しい時代ですが、それでも意識はしっかり外に向ける。意識を外に向けることが夢を広げる機会になっていくし、時が来て、また外に動こうという時のきっかけになると思います。2021年の静岡青年会議所は、個の国際化、個人個人が心を国際化させていこうよ、というキーワードも掲げさせて頂きました。

田辺市長：大事なことですよ。世界が輝くためには、一人一人が輝かないと、一人一人の市民が輝いていないと。

鍋田：実際に、静岡市としてもMICEの誘致に力を入れられていると思いますが、私たちも国際アカデミーという日本青年会議所の事業を静岡に呼び込むために、ここ数年動いています。

田辺市長：JCI^{※1}の関係ですか？

鍋田：はい。世界80カ国のJCI^{※1}のメンバーが一同に集結する事業があります。これを静岡で開催すべきだと考えています。

田辺市長：素晴らしいですね。いいですね。

鍋田：ありがとうございます。その国際アカデミーを2022年に誘致するため、私たちは2021年も活動していきます。田辺市長には、実際に静岡市の国際化について、そして、その必要性についてお話を伺いたと思います。

田辺市長：国際化は、ダイバーシティを知るといのが一番大きな効果ですね。とりわけ子供達に対して。やっぱり世界は広

いし多様性に富んでいる。色々な文化、言語、生活習慣があるということを理解できるようになること、それが国際化の一番のメリット。自分の考える常識が常識ではないかもしれない、「そうか全然違う考えがあるんだな」と気づくことで思いやりの心が育つということ。だから「差別をしちゃいけない」「色々な価値観も受け入れなければいけない」という心が育つ。人生の充実度は、出会いの数に比例すると思っています。年齢を超えて、職業を、住んでる地域を、性別をも超えて、そして国籍を超えて、どれだけの人と出会ったかということが人生の充実度に比例する。私も海外生活を含め色々な経験をさせてもらって、そんな出会いの中で今の自分の思想ができていっているのですね。そういう意味では多様な価値観を知ることが大事だと思います。

鍋田：ありがとうございます。私も同じように考えています。国際化によって何が変わるかという、人を認められるようになるのかなと、優しい人が育つと確信しています。

鍋田：最後に、SDGsについて聞かせてください。私は日本青年会議所や、県外の青年会議所メンバーと交流する機会が多くあり、その際、SDGsに対して静岡市と静岡青年会議所が強力に連携していることから「静岡青年会議所は羨ましい」とよく言われます。今ではそういったところも増えたかもしれませんが、その先駆けは、静岡市と静岡青年会議所です。私は非常に誇らしく感じております。それをふまえた上で、私たちが次にやるべきことは「知るSDGs」から「行動するSDGs」へ、知識だけでなく、生活や仕事の中で実際にSDGsをツールとして活用していくことだと考えています。

田辺市長：また力強い発言をもらって、来年どうい連携ができるかな、と考えながら聞いておりました。私たちホップステップジャンプでSDGsをやっています。SDGsは15年プログラム。認知・理解・行動という3ステップがあります。市民の

皆様は本当に多様ですから皆さんのようにもう認知理解はしているぞ、行動だ、という方たちもいるけども。まだまだ認知の段階の方もいる。私たち行政はNo one will be left behindという理念をもっているの、誰一人取り残さない。行政がやる以上、平等ですから。皆さんは民間の団体としてどんどん先頭集団を走ってほしい。私たち行政はまだ認知してない人達に対してもきちんとセーフティネットを張って認知して貰っていく。そして理解している人にはSDGs宣言企業ということで官民連携をしようと、そして行動しようとする人に対してはもっとWin-Winの関係でビジネスチャンスを提供しようということで3つのカテゴリーに分けて、行政はそれぞれのレベルに合わせて寄り添っていく、というように静岡市のSDGsへの取り組み理解をして頂いたら良いのかなと思います。

鍋田：ありがとうございます。これからも地域の問題を人任せにせず、私たち静岡青年会議所ができる活動を積極的に行っていきたいと考えています。その際はお力添えをいただければ幸いです。本日は長時間にわたりありがとうございます。

田辺市長：全然時間が足りませんね（笑）。是非またお話ししましょう。本日はありがとうございます。



※1 JCI…国際青年会議所 (Junior Chamber International) は、青年の市民活動を推進する国際 NGO。1944 年セントルイスで設立され、日本各地の青年会議所を会員として組織した日本青年会議所も加盟している。